（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	ハート愛

公表日　令和7年　2月　10日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		大人の事業所と建物を共有しているため，可能な範囲で広い部屋等を使わせてもらっている。	児童の利用が多いとき，運動をしたいとき，児童のクールダウンが必要なときなど狭いと感じることがある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		前月に児童の利用予定を精査し，職員のシフトで手厚さを補ったり，日頃の言葉の掛け合い等で支援が行き届くようにしている。	児童数が多いとき，きめ細かな対応を極めるとき，不安定な児童がいるときなど，職員の不足を感じることがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		障害の特性に応じた掲示等の工夫，ハード面の改修が必要な物については，法人に依頼して環境の整備に努めている。	従来の居室の改造により使用しているため，構造的に使いにくさを感じることはある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		トイレ等の清掃は，徹底して行っている。不足については，時間差で誘導するなど工夫している。	おおむね満足できる環境になっている。トイレが若干不足気味であるが，建物の構造上、増設が難しいところがある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		現在洋室を使ったり，靴棚の間のスペースを使ったりしてクールダウンのスペース確保をしているが，パーティション等の利用でしのぎたい。	トイレの絶対数が少なかったり，クールダウンのための空間が不十分である。ハード面ののことは法人の年次計画で解決したい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々の振り返りと改善，月単位での活動（行事等含む）の振り返りと改善，年単位での運営の振り返りと改善を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表だけでなく，送迎時，モニタリング等の対面での聞き取りも大切にしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		行事（活動）ごとの振り返りと改善，月単位での活動（行事等含む）の振り返りと改善，年単位での運営の振り返りと改善を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		当法人及び障害のある児童の教育にも詳しい第三者委員に実際に診ていただき，口頭で評価・指導を依頼している。	評価の客観性を高めるために，今後複数の第三者評価を検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		日々のOJTによる研鑽を深めるとともに，毎月の事業所内研修や年に複数回の外部講師による研修会を計画している。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		着手が遅れたが，作成・公表を終えることができた。	月々の活動案作成等，以前から当事業所の分類で分析してきたが，「5領域」による分類を，今後，より強化したい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		児発管を中心に，保護者の思いを聞き取るとともに，検査等で客観的な評価を加味しながら計画作成に当たっている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		基本的には，児発管を含む全職員が応報共有をすることで，最適な計画作成に当たっている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	○		児発管のリーダーシップの下，各児童担当職員とそれ以外の職員の情報共有の下で支援に当たっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		毎年度はじめに全児童に実施しているS-M社会生活能力検査と日々の実践から見えてくる情報等を下に支援に当たっている。	K-ABC検査やWISC-v検査等，より深く児童の特性を見極める検査を実施している機関の情報を，保護者了解の下共有できると良い。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個別支援の時間はもとより，集団での活動の中でも個の課題が達成されるよう設定している。「提供すべき支援」については，「本人支援」では各項目を有機的につなぎ，児童にとって魅力的な活動になるよう再編成している。「家族支援」「移行支援「地域支援・地域連携」については御家庭との連携を密にしながら，より具体的な支援となるようにしたい。	これまで以上に，毎回の行事（イベント）反省及び毎日の活動の実績内容をデータ化・分析し，振り返りを大切にしながら進めたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当を中心に全職員で行うようにしている。	

援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動の要素となる5領域を織り交ぜながら，当事業所で独自に設定している8分野(創作，レクリエーション，感覚・運動，生活，鑑賞・表現等）に基づき活動立案している。	継続的な活動は，形骸化しがちになる。立案時に，発達支援を軸にねらいを明確にして臨む必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		放課後という限られた時間だが，トップダウン的アプローチの多い「集団での活動」時間以外のボトムアップを中心とした「個別の指導」も大切にしている。	児童の下校時刻によって，フリーな時間が変わる。有効に活用するために個別指導のためのプログラムをより精査する必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		「活動の時間」前に，進行担当を中心に共通理解を図っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	○		準備段階での反省も含めて，全職員で反省を共有するようにしている。	チーフとサブは支援日誌への記入で記録を残しているが，次回以降の改善のための反省事項の記入が十分でない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		進行担当職員を中心にして「支援日誌」に反省を記録するが，視点が偏らないようにサブの反省記録も残すようにしている。	課題記入がまだ十分でない。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		児童の成長の状況に応じて，柔軟に対応できるようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○		1日の活動だけでは網羅できなくても，月計画を立てる中でバランスを考えて盛り込んでいる。	「活動」の実施が中心になり，「ねらい」が形骸化しがちである。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動の中ですべての児童が参加でき，自己決定できる場面設定の工夫をしている。	活動の立案段階で，その日の利用児童を想定し組み立てることを徹底したい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管，児童担当が出席、参画するようにしている。	児発管が入れない会もあったが，今後は徹底して必ず児発管も入るようにしたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	幼児関係との連携は，移行支援を通して連携をとれているが，医療機関との連携が十分でない。	個人のつながりから，組織のつながり（体制）の形を作り，持続的な関係を構築したい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校とは電話若しくは送迎時の対面の連絡，また，情報共有については保護者経由で知ることもある。	計画的な情報共有の機会を持つ必要がある。学校の個別の指導計画や個別の教育支援計画等の情報提供をいただけるとありがたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて行うようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要に応じて行うようにしている。	現在は受け身的に提供しているが，保護者（本人）の意思を確認して，より積極的な情報提供を検討したい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	○		児童発達支援センタ職員を招聘して，保護者と職員の合同研修会を開くようにしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		以前はできたが，現在はできていない。計画的に，継続的に行えるよう企画したい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		相談支援を通じて，情報共有している。	より積極的に，当事業所職員が出席する必要がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や，送迎時などに聞いたことは，職員課員で共有し，対策を練る等している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		「保護者・職員合同研修会」を実施し，情報の発・受信及び共有をするようにしている。	現在の年1回～2回からより回数を増やしたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者や児童から，取り入れて欲しい活動内容の提案があることがある。「実現するにはどうするか」の姿勢で臨むようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	○		必ず行うようにしている。	電話、LINEだけにならないようにしたい。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家庭からの発信だけでなく，事業所からの提案も含めて，必要に応じて行うようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		「保護者の集い」を設定し内容の充実を図っている。兄弟同士で交流する機会は事業所行事としてはしていないが，個人的には，家族同士で交流できているケースがある。	兄弟支援も，事業所主導で今後計画していく必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		現在のところ表だった苦情はないが，苦情につながりそうな事案には，早めに気づき「ヒヤリハット」事案として情報共有し，事前対応するようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		週報，月報，法人の季刊の「たより」等で情報発信をしている。また，その際は写真等視覚情報も盛り込むようにしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		発信・受信が滞りなくなされ，「相互障害状況」にならないよう環境の構造化に努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		秋祭り，マルシェ（正和会主催）等実施。事業所としては，「餅つき」活動に地域の高齢者等の協力をいただき，児童との交流の機会も得た。	地域的に高齢世帯が多いとはいえ，地域資源として御協力くださる方々が多いと感じている。より多くの交流の機会を作りたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		「防災マニュアル」等作成し，保護者に配付している。 毎回，想定を変えながら実施し，その結果については保護者に配付するようにしている。	当事業所のマニュアルは，「風水害・地震・火災・津波マニュアル」，「防犯対応マニュアル」，「児童捜索マニュアル（簡易版）」，「地震避難マニュアル」，感染症対応マニュアル」等，作成し保護者に配付している物もあるが，配付していない物もある。より見やすい，使いやすい形に改善して配付する必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年間を通して，昨年の反省を踏まえた火災，地震火災，地震，風水害等の避難訓練を計画的に実施，反省している。結果は，必ず保護者に配付している。	当事業所は法人の他の事業所と共にある。法人での研修も計画されており，よりよいBSPの形を作りたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		年度初めの段階で，把握するようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		年度初めの段階で，把握するようにしている。現在のところ、該当者無し。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			当事業所は法人の他の事業所と共にある。法人での研修も計画されており，よりよいBSPの形を作りたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	○		諸訓練については，その都度連絡している。	南海トラフ等、大規模災害にも耐えうるようなプランを検討し，保護者と共有するようにしたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		法人の様式に従ってヒヤリハットを作成し，事業所内研修等で対策等について共通理解を図り，さらに法人内で共有するようにしている。	「慣れ」により，ヒヤリハットを感じなくなることがないような工夫が必要。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		諸研修会で代表の職員が研修し，その後の事業所内研修で伝達研修をするようにしている。また，OJTで，日常的に話題にするようにしている。	毎月の事業所内研修の中で「虐待」を盛り込んできたが，今後も続けたい。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		児童との関わりは，「交渉」で落としどころを探りながら行うため，身体拘束が不要になることを基本としている。万一，障害特性により，興奮状態になる児童については，クールダウン用の部屋を使う。計画への記載は，必要応じて行う。	